

図 6.9-4 現存植生図 (土砂採取区域及びその周辺)

b. 陸域植物の保護上重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

植物の保護上重要な種の選定基準を表 6.9-11(1)～(2)に、重要な植物群落の選定基準は表 6.9-12 に示す。

確認された陸域植物のうち、保護上重要な種に該当する種は表 6.9-13 に示す 51 種であった。保護上重要な種ごとの分布、生育の状況及び生育環境の状況を P.6-9-14～P.6-9-21 に示す。なお、保護上重要な植物群落の確認はなかった。

表 6.9-11 (1) 植物の保護上重要な種の選定基準

選定基準		カテゴリー	
略号	名称等	記号	区分
文化財保護法等	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)に基づき国が天然記念物若しくは特別天然記念物に指定している動植物及び県・町が「文化財保護条例」に基づき天然記念物に指定している動植物	特	特別天然記念物指定種
		天(国)	天然記念物指定種(国)
		天(県)	天然記念物指定種(県)
		天(町)	天然記念物指定種(町)
種の保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)において指定されている動植物種	国内	国内希少野生動植物種
		国際	国際希少野生動植物種
		緊急	緊急指定種
県保護条例	「鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 15 年鹿児島県条例第 11 号)で鹿児島県指定希少野生動植物種に指定されている動植物	指定	鹿児島県指定希少野生動植物
環境省 RL	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省ホームページ)において絶滅危惧 I 類・IA 類・IB 類・II 類、準絶滅危惧、情報不足に判定されている動植物	絶滅	絶滅
		野絶	野生絶滅
		IA 類	絶滅危惧 IA 類
		IB 類	絶滅危惧 IB 類
		II 類	絶滅危惧 II 類
		準絶	準絶滅危惧
		情不	情報不足
県 RDB	「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物―鹿児島県レッドデータブック 2016―」(平成 28 年、鹿児島県)において絶滅危惧 I 類・II 類、準絶滅危惧、情報不足に判定されている動植物及び消滅危惧 I 類・II 類、準消滅危惧、情報不足に判定されている地域個体群	絶滅	絶滅
		野絶	野生絶滅
		I 類	絶滅危惧 I 類
		II 類	絶滅危惧 II 類
		準絶	準絶滅危惧
		情不	情報不足
		消滅	消滅(地域個体群)
		野消	野生消滅(地域個体群)
		消 I 類	消滅危惧 I 類(地域個体群)
		消 II 類	消滅危惧 II 類(地域個体群)
		準消	準消滅危惧(地域個体群)
情不(地)	情報不足(地域個体群)		
水産庁 DB	「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック(水産庁編)」(平成 10 年、日本水産資源保護協会)において絶滅危惧種、危急種、希少種、減少種、減少傾向に判定されている動植物	絶危	絶滅危惧種
		危急	危急種
		希少	希少種
		減少	減少種
		減傾	減少傾向

注) 県 RDB のカテゴリー区分では、分布特性上重要を「現在のところ県内ではごく普通に見られ、絶滅もしくは消滅の危険は低いと考えられるが、その分布の特性から考えて、今後の動向に注意を払っていくべきであると判断される種」と定義している。現状で明らかに減少傾向を示すような動向は確認されていないため、今回の調査では分布特性上重要に区分されている種を保護上重要な種として扱わなかった。

表 6.9-11 (2) 植物の保護上重要な種の選定基準

選定基準		カテゴリー等	
略号	名称等	記号	区分
専門家 助言種	<p>専門家の技術的助言において、保護上重要な種として取り扱うことが適切とされた以下の内容を満たす種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋久島で近年確認された新種（新分類群） ・現在は、前述の保護上重要な種の選定基準に該当しないものの、今後記載される可能性が高い種 ・文献等に記載がある種 <p>文献1：末次健司・山下大明. クロヤツシロラン（ラン科）を屋久島に記録する. 植物地理・分類研究. 66（1）：43-46(2018)</p> <p>文献2：KENJI SUETSUGU. <i>Gastrodia kuroshimensis</i>(Orchidaceae: Epidendroideae:Gastrodieae), a new mycoheterotrophic and complete cleistogamous plant from Japan. Phyto taxa. 278（3）：265-272.</p> <p>文献3：末次健司・福永裕一・山下大明. トサノクロムヨウラン（ラン科）を屋久島に記録する. 植物地理・分類研究. 66（1）：47-50(2018)</p> <p>文献4：Kenji Suetsugu, Hirokazu Fukunaga. <i>Lecanorchis tabuga waensis</i>(Orchidaceae, Vanilloideae), a new mycoheterotrophic plant from Yakushima Island, Japan. PhytoKey s. 73:125-135(2016).</p> <p>文献5：末次健司・福永裕一. ムロトムヨウラン（ラン科）を屋久島に記録する. Bunrui. 16（2）：207-209(2016)</p> <p>文献6：Kenji Suetsugu. <i>Gastrodia takeshimensis</i> (Orchidaceae), a new mycoheterotrophic species from Japan. Ann Bot. Fennici50:375-378（2013）.</p>	助言	<p>専門家の指摘を受けた以下の6種</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆クロヤツシロラン文献1 ◆クロシマヤツシロラン文献2 ◆トサノクロムヨウラン文献3 ◆タブガワムヨウラン文献4 ◆ムロトムヨウラン文献5 ◆タケシマヤツシロラン文献6

注) 県 RDB のカテゴリー区分では、分布特性上重要を「現在のところ県内ではごく普通に見られ、絶滅もしくは消滅の危険は低いと考えられるが、その分布の特性から考えて、今後の動向に注意を払っていくべきであると判断される種」と定義している。現状で明らかに減少傾向を示すような動向は確認されていないため、今回の調査では分布特性上重要に区分されている種を保護上重要な種として扱わなかった。

表 6.9-12 重要な植物群落の選定基準

選定基準		カテゴリー		
略号	名称	記号	区分	
天然記念物	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)	特	特別天然記念物指定種	
	「鹿児島県文化財保護条例」 (昭和 30 年 12 月 26 日鹿児島県条例第 48 号)	天 (国)	天然記念物指定種（国）	
	「屋久島町文化財保護条例」 (平成 19 年 10 月 1 日屋久島町条例第 233 号)	天 (町)	天然記念物指定種（町）	
特定植物 群落	自然環境保全基礎調査「特定植物群落調査」 (環境省)	第 2 回(昭和 53 年度)、第 3 回(昭和 59~61 年度)、第 5 回(平成 9、10 年度)調査にて特定植物群落として確認されたもの		
植物群落 RDB	「植物群落レッドデータブック」(平成 8 年)	ラ ン ク	4	緊急に対策必要
			3	対策必要
			2	破壊の危惧
			1	要注意

表 6.9-13 確認された保護上重要な種一覧

No.	科名	種名	選定基準						
			文化財 保護法等	種の 保存法	県保護 条例	環境省 RL	県RDB	水産庁DB	専門家 助言種
1	マツバラシ	マツバラシ				準絶	準絶		
2	コケシノブ	オニホラゴケ					準絶		
3	ヘゴ	クサマルハチ					準絶		
4	イノモトソウ	オオアマクサシダ					準絶		
5		ヒカゲアマクサシダ				I B類	II類		
6		カワリバアマクサシダ				II類	II類		
7		ヤクシマハチジョウシダ				II類	準絶		
8	チャセンシダ	オオタニワタリ				II類	II類		
9	シシガシラ	ホソバオオカグマ				準絶	準絶		
10	メシダ	キノボリシダ					準絶		
11		オオバミヤマノコギリシダ					準絶		
12	ウマノスズクサ	クワイバカンアオイ				II類	II類		
13	クスノキ	マルバニッケイ				準絶			
14	サトイモ	ヤマコンニャク				II類	準絶		
15	ヒナノジャクジョウ	シロジャクジョウ					II類		
16		ルリジャクジョウ						I類	
17	ラン	オキナワチドリ				II類	準絶		
18		タネガシマムヨウラン				I B類	II類		
19		ヤクシマラン				I B類	I類		
20		ダルマエビネ				II類	I類		
21		オナガエビネ			指定	II類	I類		
22		ツルラン				II類	II類		
23		トクサラン				準絶	I類		
24		シュンラン					準絶		
25		ナギラン				II類	準絶		
26		コカゲラン				I A類	I類		
27		イモネヤガラ				I B類	I類		
28		タケシマヤツシロラン							助言
29		ムロトムヨウラン							助言
30		シラヒゲムヨウラン				準絶			
31		ウスギムヨウラン				準絶	II類		
32	タブガワムヨウラン							助言	
33	アワムヨウラン				I A類	I類			
34	ミドリムヨウラン				I A類	I類			
35	ガンゼキラン			指定	II類	II類			
36	カヤツリグサ	オオシンジュガヤ					準絶		
37	イネ	シマチカラシバ					準絶		
38	キンボウゲ	ヤマハンショウヅル					準絶		
39	イラクサ	ナガバヤブマオ					準絶		
40	ミソハギ	ヤクシマサルスベリ				準絶	準絶		
41	ツチトリモチ	キイレツチトリモチ					準絶		
42	カキノキ	リュウキュウマメガキ					II類		
43	アカネ	ミサオノキ					準絶		
44		ケハダリミノキ					準絶		
45		チャボイナモリ					II類		
46	リンドウ	リュウキュウコケリンドウ				II類	I類		
47		シマセンブリ					準絶		
48		ハツカリンドウ					準絶		
49	ヒルガオ	ホルトカズラ					準絶		
50	ゴマノハグサ	シマウリクサ					準絶		
51	モチノキ	リュウキュウモチ					準絶		
合計	24科	51種	0種	0種	2種	26種	46種	0種	3種

1. マツバラシ

本州の宮城県・石川県以西の暖地～琉球列島に分布する。常緑のシダ植物で、樹幹や岩隙に生育する。

調査では、飛行場改変区域外で4個体が確認された。

2. オニホラゴケ

九州南部～琉球列島に分布する。常緑のシダで森林内の溪流沿いの湿った岩陰などに生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域内の樹林で1個体が確認された。

3. クサマルハチ

九州南部～琉球列島に分布する。常緑の大型シダで山林中の腐植質の多い地上に生育する。調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で延べ12個体が確認された。

4. オオアマクサシダ

種子島、屋久島～琉球列島に分布する。常緑のシダ植物で山地の森林中に生育する。調査では、土砂採取区域改変区域外の樹林で1個体が確認された。

5. ヒカゲアマクサシダ

本州の三重県、九州南部、種子島、屋久島に分布する。常緑のシダ植物で山地の樹林中に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で多くの個体が確認された。

6. カワリバアマクサシダ

屋久島～琉球列島に分布する。常緑のシダ植物で山地のやや乾いた林縁に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で延べ12個体が確認された。

7. ヤクシマハチジョウシダ

九州南部、屋久島、種子島、口永良部島、トカラ列島に分布する。常緑のシダ植物で山地の森林中に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域外の樹林で6個体が確認された。

8. オオタニワタリ

伊豆諸島、紀伊半島、四国の徳島県、九州南部～琉球列島に分布する。常緑のシダ植物で、やや陰湿な山林中の樹幹、岩上に生育する。

調査では、飛行場及び土砂採取区域改変区域内外の樹林で多くの個体が確認された。

9. ホソバオオカグマ

種子島、屋久島～琉球列島に分布する。常緑のシダ植物で山林中の地上に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で多くの個体が確認された。

10. キノボリシダ

種子島、屋久島、琉球列島に分布する。亜熱帯の山地の林下に見られる常緑のシダ植物である。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で多くの個体が確認された。

11. オオバミヤマノコギリシダ

本州の神奈川県以西、四国、九州、種子島、屋久島に分布する。常緑のシダ植物で山地の林下に見られる。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で12個体が確認された。

12. クワイバカンアオイ

屋久島の固有種で、分布域は堆積岩の熊毛層群の地域にほぼ限定している。常緑の多年草で常緑広葉樹林の林床に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域内外樹林の林床で多くの個体が確認された。

13. マルバナツケイ

福岡県(大島)、鹿児島県(大隅半島、薩摩半島、種子島、屋久島、トカラ列島)、沖縄県(硫黄島)に分布する。常緑の小低木で岩場海岸の風衝地に多い。海岸低木林植生を形成する。

調査では、飛行場周辺に多数見られた。

14. ヤマコンニャク

四国、九州、種子島、屋久島、トカラ列島、奄美大島、沖永良部島に分布する。地下に球形の塊茎を有する夏緑の多年草で、やや湿った森林の林床に生育する。

調査では、飛行場改変区域内外樹林で12個体、土砂採取区域改変区域内外樹林で5個体が確認された。

15. シロシャクジョウ

本州の近畿～九州、琉球列島に分布する。腐植質の溜まった林床に生育する白色の菌従属栄養植物である。

調査では、土砂採取区域改変区域内外樹林で多くの個体が確認された。

16. ルリシャクジョウ

九州南部～琉球列島に分布する。腐植質の溜まった林床に生育する青色の菌従属栄養植物である。

調査では、土砂採取区域改変区域内の樹林で3個体が確認された。

17. オキナワチドリ

九州南部～琉球列島の固有種である。海辺近くの日当たりのよい草地や岩場の割れ目などに生える小型の地生ランである。

調査では、飛行場改変区域内外で多くの個体が確認された。

18. タネガシマムヨウラン

九州南部、種子島、屋久島、琉球列島に分布する。やや湿った林床に生える地生の菌従属栄養植物である。

調査では、飛行場改変区域内の林床で 11 個体、土砂採取区域改変区域内外の樹林で 31 個体が確認された。

19. ヤクシマラン

屋久島、種子島、トカラ列島に分布する。常緑の多年草で、森林の林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域改変区域外の樹林で 6 個体が確認された。

20. ダルマエビネ

九州南部、種子島、屋久島、琉球列島に分布する。菌従属栄養植物で林床に生える。

補足調査（春季）において、土砂採取区域改変区域外の樹林で 4 個体が確認された。

21. オナガエビネ

九州南部～琉球列島に分布する。常緑の多年草で、低地林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域改変区域外の樹林で 3 個体が確認された。

22. ツルラン

九州南部～琉球列島、小笠原に分布する。常緑の多年草で、低地林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、飛行場及び土砂採取区域改変区域内外の樹林で多くの個体が確認された。

23. トクサラン

九州南部～琉球列島に分布する。常緑の多年草で、低地林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で多くの個体が確認された。

24. シュンラン

北海道～九州、屋久島、種子島に分布する。常緑の多年草で、森林の林床や林縁に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域改変区域外の樹林で 2 個体が確認された。

25. ナギラン

関東～琉球列島に分布する。常緑の多年草で、森林の林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域改変区域内外樹林で 5 個体が確認された。

26. コカゲラン

種子島、屋久島に分布する。菌従属栄養植物で林床に生える。

調査では、土砂採取区域改変区域内外樹林で 11 個体が確認された。

27. イモネヤガラ

九州南部、種子島、屋久島、琉球列島に分布する。菌従属栄養植物で林床に生える。

補足調査（夏季）において、土砂採取区域改変区域周辺の樹林で 1 個体が確認された。

28. タケシマヤツシロラン

本種は 2012 年に鹿児島県三島村竹島で発見され、2013 年に新種として記載された。これまでに竹島、黒島、中之島、屋久島で記録されている。菌従属栄養植物で林床に生える。

補足調査では、事前調査時に合計 146 個体のオニノヤガラ属が確認された。確認された個体は、いずれも閉鎖花（花被片が開かず、つぼみのまま自家受粉し、結実に至る花）を付けた個体であり、開放花（花被片が開き、他花受粉し、結実に至る花）を付けたものは確認されなかった。標本をもとに同定を行った結果、確認された個体はすべてタケシマヤツシロランであることが分かった。

補足調査第 1 回調査時には、合計 237 個体のオニノヤガラ属が確認された。確認された個体は、いずれも閉鎖花あるいは果実を付けた個体であり、開放花を付けたものは確認されなかった。標本をもとに同定を行った結果、確認された個体はすべてタケシマヤツシロランであった。

補足調査第 2 回調査時には、合計 501 個体のオニノヤガラ属が確認された。確認された個体は、いずれも果実を付けた個体であった。標本をもとに同定を行った結果、確認された個体はすべてタケシマヤツシロランであった。

29. ムロトムヨウラン

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で確認された。高知、屋久島、奄美大島、沖縄に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域改変区域外樹林で 12 個体が確認された。

30. シラヒゲムヨウラン

徳島、屋久島、奄美大島、沖縄に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域改変区域外樹林で 13 個体が確認された。

31. ウスギムヨウラン

九州南部、屋久島、奄美大島に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で多数の個体が確認された。

32. タブガワムヨウラン

長崎県福江島及び屋久島に分布する。2015年に屋久島で確認され、その後新種として記載された。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域改変区域内外樹林で17個体が確認された。

33. アワムヨウラン

本州の紀伊～九州、屋久島、種子島、奄美大島に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域改変区域外の樹林で1個体が確認された。

34. ミドリムヨウラン

屋久島、九州南部に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で23個体が確認された。補足調査（春季）ではさらに広範囲で分布が確認され、合計238個体が確認された。

35. ガンゼキラン

本州の静岡、紀伊半島～九州、種子島、屋久島、琉球列島に分布する。常緑の多年草で、低地林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で7個体が確認された。

36. オオシンジュガヤ

種子島、屋久島～琉球列島に分布する。林縁などに生える高さ30～130cmの多年草である。

調査では、土砂採取区域改変区域内外で多くの個体が確認された。

37. シマチカラシバ

九州南部～琉球列島、小笠原に分布する。夏緑の多年草で、海岸の岩上草地に生育する。

調査では、飛行場改変区域外で多数見られた。

38. ヤマハンショウヅル

本州～九州、種子島、屋久島に分布する。常緑の木本的なつる性木本で林縁に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域外の樹林で14個体が確認された。

39. ナガバヤブマオ

本州～九州、種子島、屋久島に分布する。山地の林縁に生える多年草で、高さ1～2mになる。

調査では、土砂採取区域改変区域内外で多くの個体が確認された。

40. ヤクシマサルスベリ

屋久島、種子島の固有種である。落葉性の高木で谷沿いの明るい場所に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で 16 個体が確認された。

41. キイレツチトリモチ

九州南部～琉球列島に分布する。小型の一年生あるいは二年生の寄生植物で、10 月～11 月頃、高さ 10cm 程度の花茎を地上に出す。海岸付近の低地林内に生育し、トベラやシャリンバイ、ネズミモチ、ハマヒサカキなどの根に寄生する。

調査では、飛行場改変区域外の常緑広葉樹林で 1 個体が確認された。

42. リュウキュウマメガキ

本州の紀伊半島～九州、琉球列島に分布する。落葉の中低木で斜面下部から谷にかけての林縁や明るい林床に生育する。

調査では、飛行場改変区域内外や土砂採取区域改変区域内外で多くの個体が確認された。

43. ミサオノキ

本州～九州、屋久島に分布する。常緑の低木で森林の林床に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域内の樹林で 2 個体が確認された。

44. ケハダルリミノキ

屋久島～琉球列島に分布する。常緑の低木で森林の林床に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域外の樹林で 1 個体が確認された。

45. チャボイナモリ

屋久島～琉球列島に分布する。常緑の小型の多年草で林内のやや湿った所に生育する。

調査では、土砂採取区域改変区域外の樹林で多数確認された。

46. リュウキュウコケリンドウ

屋久島からトカラ列島、奄美諸島地域の固有種である。越年草で海岸のシバ草原に生育する矮小な草本植物である。

調査では、飛行場改変区域外の 1 箇所 で 50 個体が確認された。

47. シマセンブリ

種子島、屋久島～琉球列島に分布する。夏緑の多年草でやや湿った海岸草原や浜辺に生育する。点的に生育するが多いものではない。

調査では、飛行場改変区域外で 100 個体以上が確認された。

48. ヘツカリンドウ

九州南部～琉球列島に分布する。常緑の多年草で、林縁や林床に生育する。
調査では、飛行場改変区域外の樹林で多数の個体が確認された。

49. ホルトカズラ

九州南部～琉球列島に分布する。常緑のつる性木本で林縁等の明るい場所に生育する。
調査では、土砂採取区域改変区域内外で8個体が確認された。

50. シマウリクサ

九州南部～琉球列島に分布する。湿地や水田に生育する夏緑の一年草である。
調査では、飛行場改変区域内で4個体が確認された。

51. リュウキュウモチ

九州～琉球列島に分布している。常緑の小高木で林縁や路傍に生育する。
調査では、土砂採取区域改変区域内外の樹林で6個体が確認された。

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡 例

 対象事業実施区域

● 確認位置

<確認時期>

 夏

マツバラン 1 (夏)

種名 確認数 確認時期

 調査範囲

 変更区域

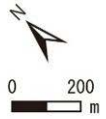


図 6.9-5 植物（マツバラン）の確認位置図（飛行場及びその周辺）（1）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-6 植物（オニホラゴケ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（2）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-7 植物（クサマルハチ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（3）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-8 植物（オオアマクサシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（4）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

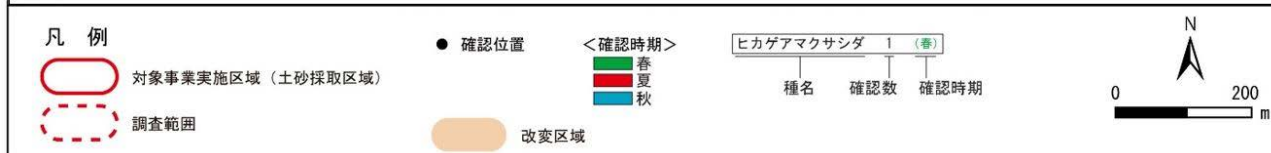


図 6.9-9 植物（ヒカゲアマクサシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（5）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-10 植物（カワリバアマクサシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（6）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-11 植物（ヤクシマハチジョウシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（7）



図 6.9-12 (1) 植物（オオタニワタリ）の確認位置図（飛行場及びその周辺）（8）



図 6.9-12 (2) 植物（オオタニワタリ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（8）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

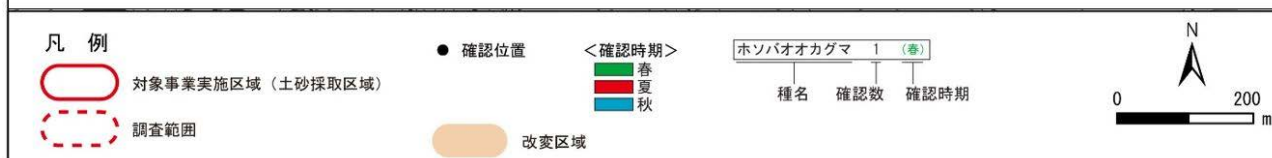


図 6.9-13 植物（ホソバオオカグマ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（9）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

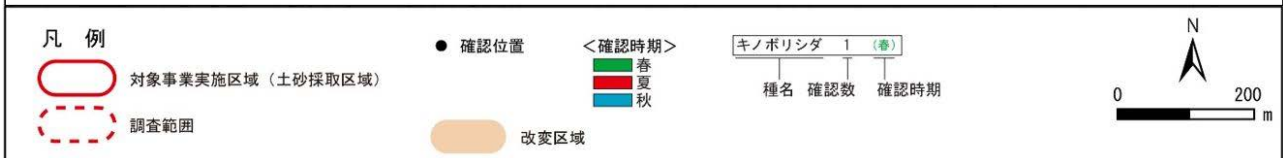


図 6.9-14 植物（キノボリシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（10）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-15 植物（オオバミヤマノコギリシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（11）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

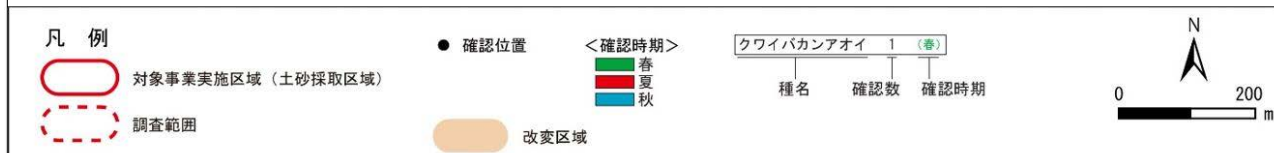


図 6.9-16 植物（クワイバカンアオイ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（12）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

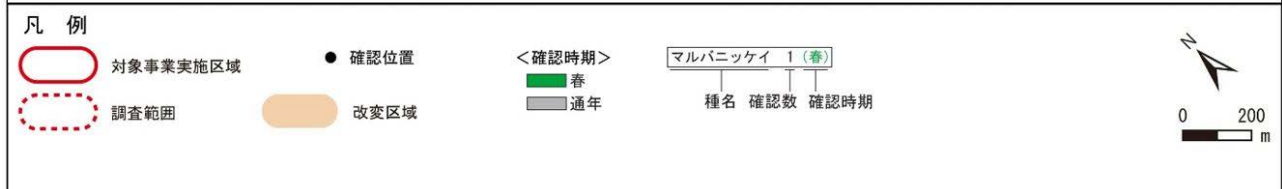


図 6.9-17 植物（マルバニッケイ）の確認位置図（飛行場及びその周辺）（13）